

CNCP 通信

VOL.140／2025.12.5

■今月の土木■



▼シリーズ：適疎な地域づくり

- ・シャッター街から“めぶく。”まちへ：岩佐宏一
- ・「適疎な地域づくり」の事例検索システム～CNCP ホームページの新機能～

：適疎な地域づくり研究会

▼子ども土木世界（ぬりえ）

- ・三重 伊勢大橋：土木と市民を繋ぐフォーラム

▼身近な土木

- ・荒川横堤：田中努

▼事務局通信

上：荒川横堤（美谷本第2横堤）の連続堤防上からの眺め
右：横堤上に設置されている土木学会選奨土木遺産の銘板

■荒川横堤

上の写真は、荒川中流域の左岸側の連続堤防から、直角に、流れに向かって突き出した「横堤」で、荒川の特徴的な堤防だそうです。現在は、その役目を終え、彩湖や河川敷のグリーンパークに降りる道路の1つに使われています。全国の河川にある一般的な構造ではないので、「ここが横堤だ」と言われなければ、？？と思いながら素通りしてしまう土堤です。「荒川横堤」は、2008年に土木学会の選奨土木遺産に認定され、現存する25箇所の内、ここ「美谷本第2横堤」に、写真の銘板が設置されています。「横堤」の機能などは、後述します。（田中努）

▼身近な土木に続く



▼シリーズ「適疎な地域づくり」

シャッター街から“めぶく。”まちへ
-まえばしに見る適疎な地域づくり-シビルNPO 連携プラットフォーム 副代表
アイセイ株式会社 代表取締役

岩佐 宏一



みなさんのおすすめの地域はどこでしょうか？

私のいちばんのおすすめは「沖縄」です。

「沖縄のどこが好き？」と聞かれると、どこと言い切るのはむずかしいのですが、ほぼ一年中あたたかく、穏やかな風が吹き、何より海がきれい。そしてホテル好きの私にとっては、個性豊かなホテルがあちこちにあり、どこに滞在しても楽しめるのが何よりの魅力です。年に2～3回、十数年通い続けていますが、そのたびに新しい発見があり、いつ行ってもワクワクさせてくれる場所です。

ただ、今の「一押し」は、私が生まれ育ったまち“水と緑と詩のまち”「前橋」です。

■シャッター街になった故郷

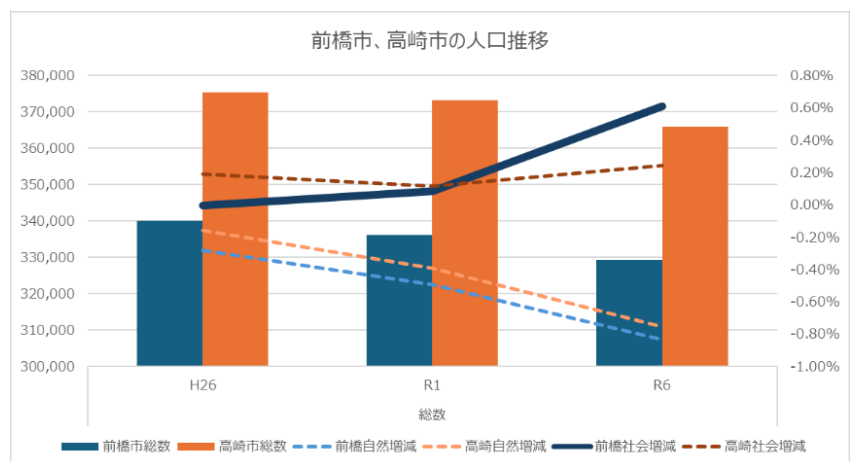
私が子どものころの前橋は、路面店や百貨店がにぎわい、アーケードを歩けば誰かしら知り合いに会うような活気あるまちでした。しかし、上越新幹線の停車駅が高崎駅になり、まちへの投資的価値が低下したことなどから、次第に空洞化が進みました。夜の華やかさばかりが目立つようになり、昼間の人通りは少なくなり、アーケードの商店はシャッターを下ろす店が増え、日本屈指の「シャッター街」と呼ばれるようになってしまいました。賑わいのあった最盛期と比べると、訪れる人の数は10分の1まで減ってしまったと言われています。

■民間の力で変わり始めた前橋

そんな前橋が、いま「訪れたいまち」へと変わりつつあります。きっかけとなったのは、行政主導ではなく、民間の活力でした。

近隣のライバル都市である高崎市との比較を見てみると、どちらも人口減少が続いており、特に出生数と死亡数の差である「自然増減」は避けられない状況です。一方で、転入と転出の差である「社会増減」については、前橋は増加に転じています。

この理由を単純に説明することはできませんが、「前橋を盛り上げたい」という行政と民間の思いと行動が、少しずつ結果として現れているのではないかと感じています。ここからは、その行動について少し紹介したいと思います。



■「めぶく。」前橋ビジョンの誕生

前橋市では、平成28年に「都市魅力アップ共創（民間協働）推進事業」として、前橋ビジョン「めぶく。」を掲げたまちづくり構想が始まりました。この推進事業を先導したのは、アイウエアブランド「JINS」の田中仁さんが立ち上げた「一般財団法人田中仁財団」です。財団を通じて、前橋市のビジョン策定をドイツのコンサルティング会社「KMS TEAM」に依頼し、「Where good things grow（よいものが育つ

まち)」というコンセプトが提案されました。そのフレーズを市民により浸透させるために、糸井重里さんが日本語で「めぶく。」と表現しました。

この「めぶく。」は、「前橋のまちはどうせ変わらない」とあきらめかけていた気持ちを、「前橋はこれから変わる」「自分たちで変えていく」という前向きな思いへと切り替える、大きなきっかけになったのだと思います。

■共感する人が集まり、プレーヤーが増えていく

「めぶく。」のビジョンに共感する人々が増え、前橋に新たな価値を生み出そうとする動きが広がりました。そのひとつが、前橋の新たな価値づくりを目指す「太陽の会」です。さらに、地域のサポーターが集まり、コミュニティハブとなる「前橋まちなかエージェンシー」も立ち上がりました。

令和元年9月には「前橋市アーバンデザイン」が発表され、それと同時に、まちづくりをサポートする「前橋デザインコミッション」が設立されました。これにより、それまでの行政主導の取り組みから一歩進んで、官民が連携しながら、思いを実際の行動へとつなげていく体制が整っていきました。

■川と本とデザインがつくる、新しい前橋の風景

前橋のまちの真ん中を流れる広瀬川周辺では、整備に合わせて水辺空間の利活用が進められています。広瀬川マルシェ、キッチンカー、ワークショップなど、多様なイベントが生まれ、訪れる人の満足度を高めています。

メインアーケードの中央通り商店街では、「本で元気になる」をコンセプトに、糸井重里さんプロデュースの「マエバシ BOOK FES」が開催されています。このイベントの面白いところは、「本を売る」のではなく、「本を通して交流する」ことを大切にしている点です。本の交換や出展者とのコミュニケーションを通して、本を無料で持ち帰ることができます。

かつてシャッター街と呼ばれた通りに、約4万人もの人が集まり、人と人とのつながりが生まれ、周辺商店にも活気が戻りつつあります。

■点在するデザインスポットがまちの魅力を底上げする

前橋には、点在するデザインスポットも、まちの賑わいを支える大切な要素になっています。

平田晃久建築設計事務所による「まえばしガレリア」は、アートと生活空間が共生するコーポラティブ・クリエイションハウス。サポーズデザインオフィスが手掛けた複合施設の「ばばっかわスクエア」、ジャスパー・モリソンさんがデザインし、高濱史子さんがローカルアーキテクトを務めた馬場川通り入口の「馬場川パブリックトイレ」、広瀬川湖畔に移設された、岡本太郎「太陽の鐘」。そして、前橋の新たなシンボルともいえる、藤本壮介さんデザインの「白井屋ホテル」。

これらのスポットが点から面へとつながることで、まちの魅力を一層高めています。



家で眠っている本を集めて、新しい読み手との縁をつなぐ前橋ブックフェスのメインプログラムが「本のやり取り」です。中央通りに全国から寄贈本が集まります。気になる本があったら、出展者とお話していただいた上でお持ち帰りいただけます。ご自身でお持ちの本と交換することもできます。参加は無料で、やり取りする本の数に制限はありません。本と人との出会いをお楽しみください。

「本のやり取り」に本をご提供いただく方法

「出展者」

中央通りの出展スペースの使用をお申し込みいただき、お持ちの本を並べ、新しい読み手となるフェスの参加者との対話をお楽しみいただけます。

「前橋に送る本」

ご自宅で眠っている本を指定の宛先にお送りいただけます。当日の「本のやり取り」はフェスのスタッフが行います。

参考/マエバシ BOOK FES ホームページ



馬場川通りに面した白井屋ホテル

■全国初のSIB事業「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト」

極めつけは、「馬場川通りのアーバンデザインプロジェクト」として実施された、全国初のSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）事業です。太陽の会からの3億円の寄付金を、馬場川通りの改修工事費に充て、道路インフラの整備から周辺のまちづくりへと展開しました。その結果、ロジックモデルにおける中間アウトカムとして設定されていた「通行量の増加」という成果を実際に達成しています。

■私にとっての「適疎な地域」＝前橋

私がおすすめする前橋は、多様な人たちが、それぞれの思いで地域課題に取り組んでいるまちです。

その取り組みの結果、人と人とのつながりはより深くなり、やがて網の目のように絡まり合いながら広がっていきます。その先に、まちの活性化や地域の豊かさが育まれていく。そんな前橋こそ、私にとっての「適疎な地域」です。

■都市の豊かさと、その影の部分

一方で、都市部への一極集中が進む地域では、人材や情報が集まりやすく、経済的な豊かさや生産性の向上が期待できるというメリットがあります。個人にとっても、仕事や学びの選択肢が多く、生活が便利で、不自由を感じにくいという良さがあります。しかしその裏側では、交通渋滞やごみ処理問題に伴う大気汚染、災害時の被害の拡大、そして物価上昇による格差の拡大など、さまざまな課題も生まれています。



整備された広瀬川河畔

■もっと気楽に「地域との関わり」を考えてみませんか

こうした地域間の課題を和らげるひとつのヒントが、「地域とのかかわり方」を見つめ直すことだと思います。

もっと気楽に、地域との関わりを考えてみませんか。

心のよりどころとして地域に委ねることへの安心感。自分を受け入れてもらえ、没頭できて、夢中になれる場。そんな場所を、ひとつ持ってみる。それが「適疎な地域」との出会いなのかもしれません。

みなさんにとっての「適疎な地域」を、探してみてもいいのではないでしょうか。

▼シリーズ：適疎な地域づくり

「適疎な地域づくり」の事例検索システム
- CNCP ホームページの新機能 -シビル NPO 連携プラットフォーム
適疎な地域づくり研究会

CNCP のプラットフォーム事業のプロジェクトの1つである「適疎な地域づくり研究会」の活動は、賛助会員のゼネコンの方々を中心に、CNCP の代表・副代表・常務理事も参加し、CNCP として力を入れている活動です。既に、CNCP のホームページに、「適疎な地域づくりのページ」があることはご存じと思いますが、先月、「事例」の検索システムを追加しました。本稿では、その使い方をお知らせしますので、是非、使ってみてください。

■「適疎な地域づくり」の事例とは

ここに紹介している事例と論文等は、研究会のメンバーが、公表されている地域づくりの情報サイト等から、これからの地域づくりの参考となると考えて抽出した、よい事例の一部です。

集めた事例の数は、右表の通りで、総数 96 件、まだピックアップできていない府県もあり、全国で進められている事例の一部に過ぎません。「参考資料」のページに、他団体の地域づくりの事例を掲載している情報サイトを紹介してありますので、あわせてご活用ください。論文・記事・書籍等も、まだまだですが、43 件あります。

■事例検索のページのありか

事例検索のページへは、次の①～③のいずれかでジャンプします。

①CNCP のホームページの全ページの上端にあるグローバルメニューの「適疎な地域づくり」のプルダウンメニューをクリックする。



②「適疎な地域づくりのページ」の各ページの下端にある下記のボタンを押す。



③CNCP のホームページの TOP ページから、「適疎な地域づくりのページ」に飛んだ後、「事例集」のボックスボタンを押す。【次図】

地理の教科書で使われている地域区分				事例数	
地域 NO	地域	府県 NO	都道府県	2025/5/29	
1	北海道	01	北海道	2	2
2	東北	02	青森県	1	10
		03	岩手県	2	
		04	宮城県	3	
		05	秋田県	1	
		06	山形県	1	
		07	福島県	2	
3	関東	08	茨城県	6	16
		09	栃木県	1	
		10	群馬県	5	
		11	埼玉県	0	
		12	千葉県	2	
		13	東京都	2	
4	中部	14	神奈川県	0	22
		15	新潟県	3	
		16	富山県	2	
		17	石川県	3	
		18	福井県	3	
		19	山梨県	1	
		20	長野県	4	
		21	岐阜県	3	
		22	静岡県	1	
		23	愛知県	2	
5	近畿	24	三重県	2	11
		25	滋賀県	3	
		26	京都府	0	
		27	大阪府	0	
		28	兵庫県	2	
		29	奈良県	3	
6	中国	30	和歌山県	1	14
		31	鳥取県	3	
		32	島根県	3	
		33	岡山県	2	
		34	広島県	4	
7	四国	35	山口県	2	9
		36	徳島県	2	
		37	香川県	2	
		38	愛媛県	2	
8	九州 沖縄	39	高知県	3	12
		40	福岡県	2	
		41	佐賀県	1	
		42	長崎県	1	
		43	熊本県	1	
		44	大分県	1	
		45	宮崎県	2	
		46	鹿児島県	3	
		47	沖縄県	1	
			合計	96	96



IQE・適疎な地域づくり

人口減少時代の地域づくりを新たな視点で考える
～適疎な地域づくりをめざして～

- 代表あいさつ
- 適疎とは？
- 提言
- 事例集
- 今後のネットワークづくりに向けて
- 参考資料



■ 検索方法

検索のページは、右図の通りで、CNCP 通信の検索と同様のデザインにしています。

検索条件は、次の 4 項目で、何も入力しなければ全データが、入力すると絞り込んだデータが抽出されます。各項目間の関係は and 検索になっています。

1) データ分類：検索対象が事例か論文等かを選択します。両方も可能で、デフォルトでは両方にチェックを入れてあります。片方のチェックを外すと、対象から除外されます。

2) 名称・内容等：探したい団体・活動・論文等の名称の一部が正確に分かっている場合は、その単語を入力すると、事例や論文を絞り込みます。

3) 地域：〇〇地方の、あるいは〇〇県の事例を見たいという場合は、ここで絞って下さい。

4) #タグ・キーワード：6 種類のカテゴリーで、それぞれ数個ずつのキーワードを用意してあります。絞り込むキーワードにチェックを入れて、検索して下さい。and 検索と or 検索が選択できます。

■ 検索結果の見方

検索結果は、右図のように 1 件ずつ、「事例」を対象地域の位置で北から順に、その後に「論文等」を発行年月の古い順に、表示します。

1 番上の推進団体名に下線があるときは、クリックするとその団体のホームページに飛びます。



TOP > 地域づくりの事例集・論文の検索 new

下記で検索できる事例・論文は、研究会のメンバーが公表されている情報サイトから収集し、これらの地域づくりの参考となると考えた良い事例の一部です。その数は、全国で進められている事例の一部に過ぎないため、「参考資料」の他団体の地域づくりの事例を掲載している情報サイトも、あわせてご利用ください。

戻る

地域づくりの事例集・論文検索

以下の 1) ～ 4) の各項目で検索条件を選択・入力してください。各項目間の関係はand検索になっています。

1) データ分類 ☒ 事例 or ☒ 論文等

2) 名称・内容等
文字検索です。検索に当たっている部分のみ、単語をいれてください。
検索する単語は、スペースで区切って、複数入力できます。「and検索」です。で、いずれかが通るとヒットしません。

団体名・執筆団体・執筆機関名

活動名・論文名等

活動内容

3) 地域
自治体名をクリックしてください。「or検索」ですので、複数にチェックを入れると範囲が広がります。選択がない場合、対象範囲が全国になります。

☐ 北海道 ☐ 青森県 ☐ 岩手県 ☐ 宮城県 ☐ 秋田県 ☐ 山形県 ☐ 福島県

☐ 東北地方 ☐ 茨城県 ☐ 栃木県 ☐ 群馬県 ☐ 埼玉県 ☐ 千葉県 ☐ 東京都 ☐ 神奈川県

☐ 関東地方 ☐ 新潟県 ☐ 富山県 ☐ 石川県 ☐ 福井県 ☐ 山梨県 ☐ 長野県 ☐ 岐阜県 ☐ 静岡県

☐ 中部地方 ☐ 山梨県 ☐ 長野県 ☐ 岐阜県 ☐ 静岡県 ☐ 愛知県 ☐ 三重県 ☐ 滋賀県 ☐ 京都府 ☐ 兵庫県 ☐ 奈良県 ☐ 和歌山県

☐ 近畿地方 ☐ 徳島県 ☐ 高松市 ☐ 愛媛県 ☐ 高知県 ☐ 山口県

☐ 中国地方 ☐ 徳島県 ☐ 高松市 ☐ 愛媛県 ☐ 高知県 ☐ 山口県

☐ 四国地方 ☐ 徳島県 ☐ 高松市 ☐ 愛媛県 ☐ 高知県 ☐ 山口県

☐ 九州・沖縄地方 ☐ 福岡県 ☐ 佐賀県 ☐ 大分県 ☐ 熊本県 ☐ 鹿児島県 ☐ 沖縄県

4) #タグ・キーワード
必ず「or検索」か「and検索」かどちらかを選んでください。orの場合は対象が広がり、andの場合は絞り込まれます。

☒ AND (AかつB) ☐ OR (AまたはB)

1. 地域おこしの範囲 ☐ 11. 府県内全域 ☐ 12. 市町村全域 ☐ 13. 田村や一部市町村 ☐ 14. 間田・道後・歴史的な地域など ☐ 15. 複数地域の連携

2. 地域おこしの種別 (種別のある風景や歴史・伝統的建造物など) ☐ 21. 特色ある風景 (蔵山・棚田・水田・お花畑・夜間など) ☐ 22. 歴史的な街並み・出来事・人物 ☐ 23. 産業・伝統的建造物と景観文化遺産 ☐ 24. 神社仏閣・古墳等史跡 ☐ 25. 自然史や環境 ☐ 26. 伝統的な音楽

3. 地域おこしの種別2 (種別のある産業・物産・施設など) ☐ 31. 農業関連 ☐ 32. 林業関連 ☐ 33. 漁業関連 ☐ 34. 工業・加工関連の活動 ☐ 35. 商業関連 ☐ 36. 観光関連 ☐ 37. 物産・名産 ☐ 38. 中心施設・公共インフラ

4. 地域おこしの種別3 (新たに作る関係) ☐ 41. 6次産業化・ブランド化 ☐ 42. 「まるごと○○」など新しい事業 ☐ 43. アート・スポーツ ☐ 44. 学び・遊び・体験の場 ☐ 45. ワークेशन・デジタル村長等IT活用 ☐ 46. ワーリズム (エコ・ジョイ・インバウンド・お土産など) ☐ 47. SDGs ☐ 48. 移住定住

5. 地域おこしの組織・仲間 ☐ 51. 自治体の推進部門 ☐ 52. 市民連携 (協議会含む) ☐ 53. 商工会や自治会 ☐ 54. 地域の法人 (企業・団体) ☐ 55. 地域外の法人 (企業・団体) ☐ 56. 任意団体・住民の活動仲間等 ☐ 57. 大学や学生

6. 地域おこしの活動のやり方 (手段・方法) ☐ 61. 空き家再生・活用 ☐ 62. イベント開催 ☐ 63. 研修・講演やワークショップ ☐ 64. 地域間・世代間の連携・交流 ☐ 65. 表彰 (受賞) の活用 ☐ 66. 広報 ☐ 67. 住民基金・ファンド

リセット

検索

東川町役場 適疎推進課

写真のまちの「適疎な」まちづくり

1985年、一村一品運動が盛り上がりつつあったとき、当時の町長が「モノ」ではなく「コト」に着目し、「写真の町宣言」を行った。それから40年、一貫して「写真の町」を核としたまちづくりを進め、創業する若者の移住者が増加し、人口増につながっている

北海道 / 東川町 全域

情報番号: 010100

●関連情報

最大の魅力は一緒につくれる余白。北海道・東川町に学ぶ「適疎」のまちづくり

- 12. 市町村全域
- 42. 「まるごと○○」など新しい事業
- 51. 自治体の現業部門
- 63. 研修・講演やワークショップ
- 64. 地域間・世代間の連携・交流
- 67. 住民基金・ファンド

■ #タグ・キーワード

前ページの「検索方法」で説明した事例を内容で検索する際の「#タグ・キーワード」は、右表のように、大きく 6 種類のカテゴリーに分かれ、計 42 のキーワードをセットしてあります。

登録済みの全事例 96 件を、各キーワードで 1 次集計すると、右表のようになります。

緑で着色したキーワードは、各カテゴリー内で、上位の 2/3 をカバーする内容を示しています。各カテゴリーで多い事例は、緑の 2~4 キーワードに該当するという状態です。

1 の「範囲」は、各事例がいずれか 1 つに該当するので合計は 96 件です。

2~4 の「核」は、複数の「核」を持つ事例が多いので、重複し、全体で 199 件。平均 2.1 の「核」を有しているということです。

5 の「組織・仲間」は、複数の種類の仲間と協働する場合もあります。

6 の「活動のかたち」は、情報不足で、事例数全数より少なくなっていました。

上記の 6 のように、私たちが調べた公開情報には限りがあり、また私たちの調査力にも限界があり、完全に把握できていない訳ではありません。興味を持った活動がありましたら、是非、その団体のホームページ等を見てください。

各カテゴリーの該当件数（2.以下は重複選択あり）		件数	比率	合計	
1. 地域おこしの範囲		11. 府県内全域	0	0%	96
		12. 市町村全域	44	46%	
		13. 旧村や一部市街地	31	32%	
		14. 商店街・温泉街・歴史的地域など	20	21%	
		15. 複数地域の連携	1	1%	
地域おこしの核	2. 地域おこしの核1（昔からある風景や史跡・伝統的建造物など）	21. 特色ある風景（里山・棚田・水田・お花畑・夜景など）	13	24%	55
		22. 歴史的な街並み・出来事・人物	14	25%	
		23. 重要伝統的建造物と登録文化遺産	16	29%	
		24. 神社仏閣・古墳等史跡	0	0%	
		25. 古民家や廃校	11	20%	
		26. 伝統的な祭事	1	2%	
	3. 地域おこしの核2（現在ある産業・物産・施設など）	31. 農業関連	11	14%	80
		32. 林業関連	4	5%	
		33. 漁業関連	1	1%	
		34. 工業・工芸関連の活動	3	4%	
		35. 商業関連	15	19%	
		36. 観光関連	31	39%	
		37. 物産・名品	8	10%	
		38. 中心施設・公共インフラ	7	9%	
	4. 地域おこしの核3（新たにつくる価値）	41. 6次産業化・ブランド化	8	13%	64
		42. 「まるごと〇〇」など新しい事業	11	17%	
		43. アート・スポーツ	5	8%	
		44. 学び・遊び・体験の場	9	14%	
		45. ワークेशन	11	17%	
46. ツーリズム（エコ・ジオ・インバウンド・お遍路など）		2	3%		
47. ICT活用		3	5%		
48. SDGs		15	23%		
49. 移住定住		0	0%		
5. 地域おこしの組織・仲間		51. 自治体の現業部門	15	12%	126
		52. 官民連携（協議会含む）	19	15%	
		53. 商工会や自治会	2	2%	
		54. 地域の法人（企業・団体）	55	44%	
		55. 地域外の法人（企業・団体）	5	4%	
		56. 任意団体・住民の活動仲間等	26	21%	
		57. 大学や学生	4	3%	
6. 地域おこしの活動のかたち		61. 空き家再生・活用	10	14%	70
		62. イベント開催	8	11%	
		63. 研修・講演やワークショップ	7	10%	
		64. 地域間・世代間の連携・交流	29	41%	
		65. 表彰（受賞）の活用	6	9%	
		66. 広報	6	9%	
		67. 住民基金・ファンド	4	6%	

▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから

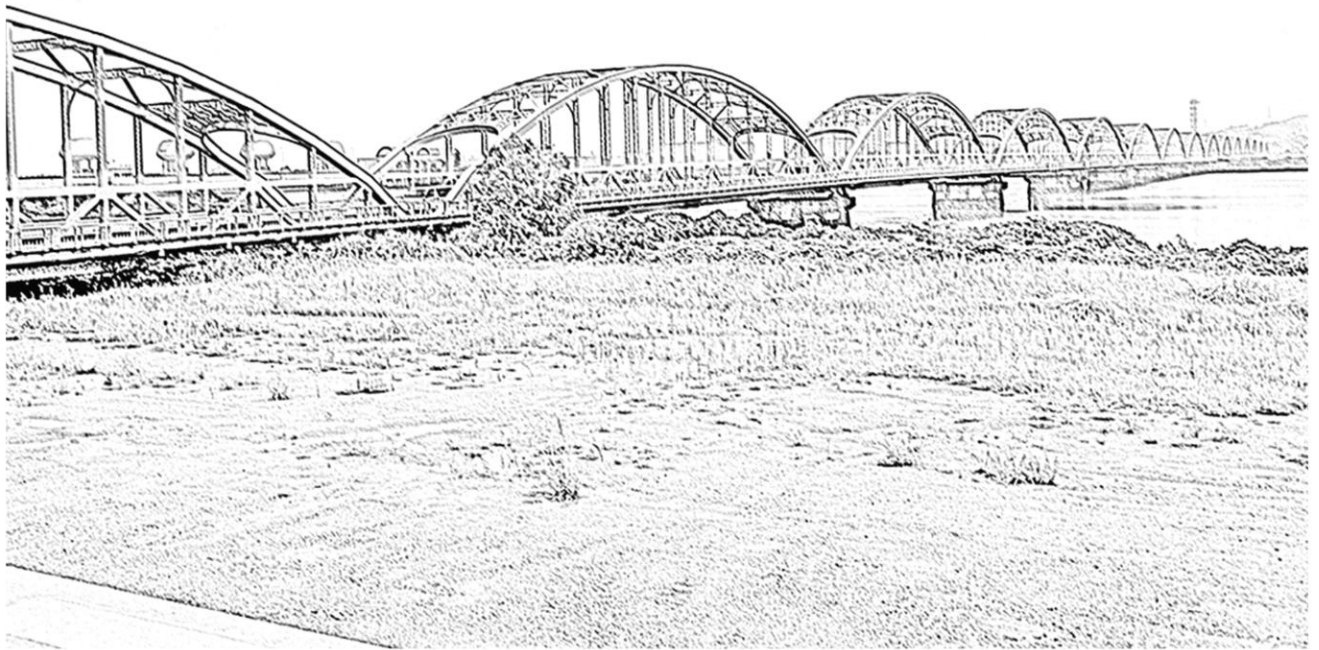
シリーズ 子どもが知りたい土木の世界を発見！

土木の
しごと土木ぬりえ
いせおおはし
「伊勢大橋」

このコーナーでは、CNCP 会員や関係者の皆様から提供いただいた、土木構造物のぬりえや素敵な写真、イラストなどの作品を紹介します。

見事な15個のアーチで、心もはずむ♪

三重県の長良川と揖斐川（いびがわ）に架かる、伊勢大橋。まるで飛び石のようにアーチが15個も連なっています。夏に開催される桑名水郷花火は昭和9年の伊勢大橋完成記念として始まったそうです。



撮影場所：三重県桑名市福島



ぬりえの作成は、(株)パイロットコーポレーションの「写真でぬりえをつくろう。」を活用しています。「写真でぬりえをつくろう。」 <https://pilot-nurie.jp/>

▼身近な土木

荒川横堤

- 荒川特有の洪水対策 -

シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長
メトロ設計株式会社 取締役

田中 努



荒川は、わたしの住まいの比較的近くを流れており、河川敷の秋ヶ瀬公園は、わたしの子ども達が小さいときに、時々連れて行った場所でした。今年の夏、Google Maps を見ていたときに、荒川の河川敷に (遺跡のマーク) が付いた「土木学会推奨土木遺産」というのがあり、「何だ？これ！」と思ったのが「荒川横堤」でした。

本号の表紙を含め、写真は私の撮影ですが、紹介記事は下記の資料に寄ったもので、詳しくは、是非、そちらを見て下さい。

※私たちの荒川/令和元年 12 月 26 日/荒川上流河川事務所

https://seifu.sakura.ne.jp/chiribukai/20191226_watashitachinoarakawa.pdf

※仕組み・効果/荒川調節池工事事務所

<https://www.ktr.mlit.go.jp/araike/jigyuu/shikumi.htm>

※なるほど!! 荒川第二・三調節池/荒川調節池工事事務所

<https://www.ktr.mlit.go.jp/araike/pdf/pamphlet/naruhodo-v2.pdf>

※土木学会/推奨土木遺産/荒川横堤

<https://committees.jsce.or.jp/heritage/node/90>

※広大な高水敷と横堤群を有する荒川中流部の洪水調節機能に関する研究/竹村吉晴・福岡捷二・吉井拓也/土木学会論文誌 B1 (水工学) Vol.74/No.4/L_1387-L_1392/2018.

■荒川

荒川は、甲武信ヶ岳に発し、埼玉県と東京都を流れて、東京湾に注ぐ一級河川で、流路延長は約 170km、流域面積は約 2,900km² の大河川です。甲武信ヶ岳は、甲州（山梨）・武州（埼玉）・信州（長野）の県境に位置する標高 2,475m の山で、荒川その他、笛吹川と千曲川の源流にあたる分水嶺でもあるそうです。

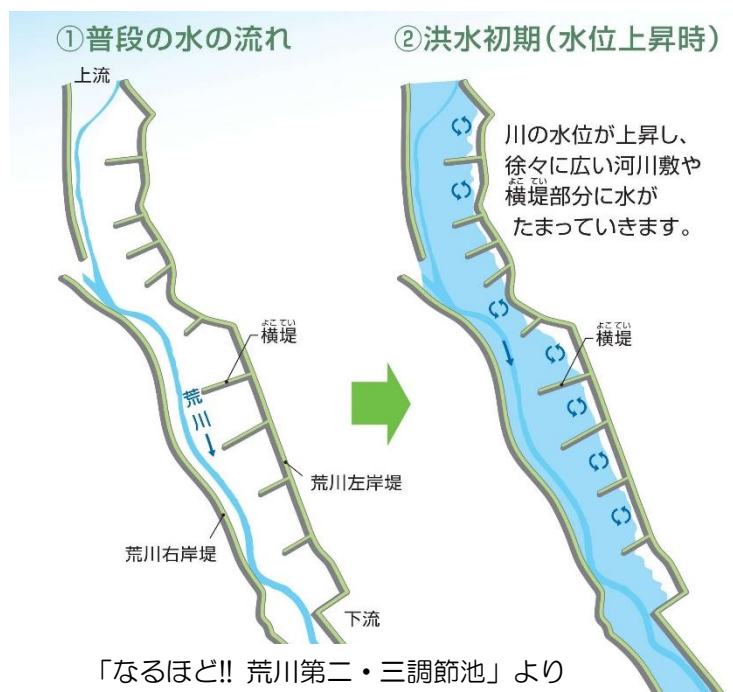
荒川の中流部は、川幅が 1km 以上と広く、鴻巣市と吉見町をつなぐ御成橋付近では 2.5km もあり日本一だそうです。それ故、高水敷（洪水の際に水没する部分の土地）の約 60% も民有地があるそうです。

■横堤の仕組み・効果

横堤は、荒川中流部の広い川幅を利用した洪水対策です。

右図の左のように、普段は、普通の大きな川の流れですが、洪水時には、右図の右のように高水敷に溢れます。高水敷に横堤があると、流れは止められ、横堤と横堤の間で「遊水」となり、洪水の勢いを弱め、下流へ流れる水量を減らす効果があるそうです。

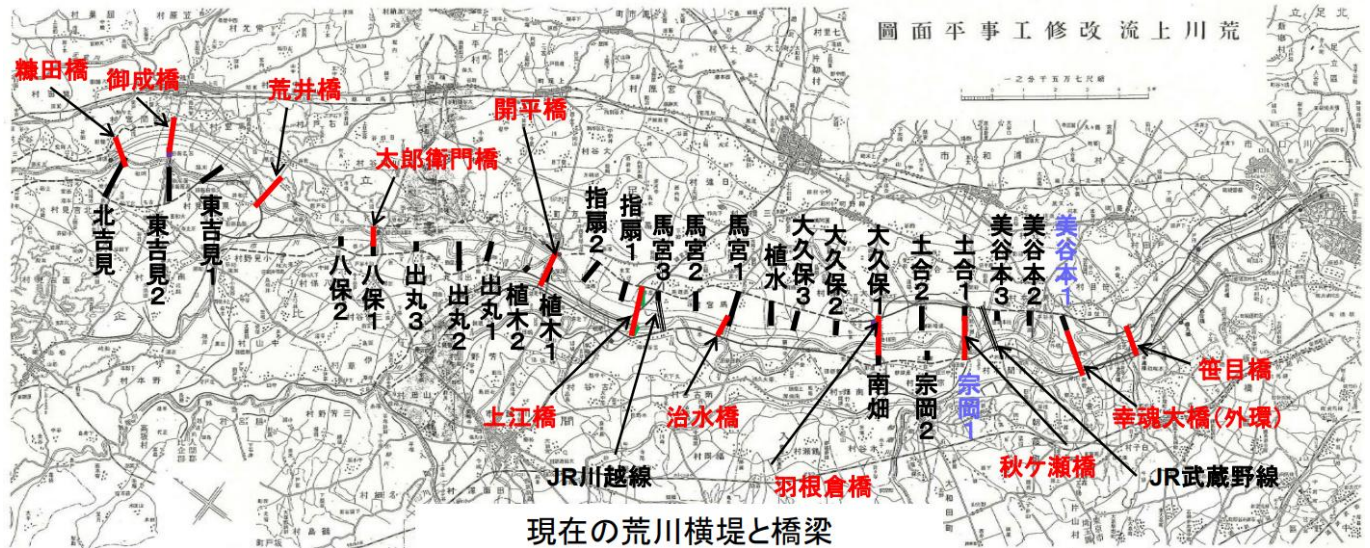
荒川中流部は、元々、蛇行が多く洪水時に氾濫する川でしたが、大正～昭和初期に、治水対策として河道の直線化と堤防の整備が行われ、併せて広い高水敷を利用する横堤が構築されました。



■荒川横堤の位置

荒川横堤は、下図の黒線のように、計 27 箇所に建設されました。

横堤は、本稿の表紙の写真のように、連続堤防から直角に河道に向かって延びているため、川幅の広い荒川を渡る橋長を短くできるので都合が良く、下図の赤線は道路橋、黒二重線は鉄道橋ですが、8 箇所で道路橋のアプローチに転用されています。



「私たちの荒川/令和元年 12 月 26 日（荒川上流河川事務所）」より



美谷本第2横堤



土合第2横堤（右は横堤の先端）



■現在の調節池へのバージョンアップ

現在は、60%も民有地である高水敷への越水を抑え、かつ洪水調節の効果を高めるため、河道と高水敷との間に「囲繞堤（いぎょうてい）」を作って、高水敷だったところを調節池に変える事業が進んでいます。

冒頭の資料5つめの論文によると、横堤群だけでは、洪水の立ち上がりでの河道貯留率を高めますが、水位が増した後に起きる洪水のピークを低減する効果が小さく、下流での氾濫域は小さくならないようです。そのため、上図のように調節池に変えて洪水ピークをコントロールし、整備前の都内の浸水域内人口 160 万人を、1/3 にする計画だそうです。



CNCP は、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です。

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷

事務局長 田中 努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cnnp.org/>



▼事務局通信

■11月の実績

●第139回経営会議

開催日・場所：11月11日（火）Zoom 会議
議題：各事業の進捗確認／サロンの準備／適疎な地域づくり
研究の進め方

●第2回「CNCPサロン」

開催日・場所：11月27日（木）（株）アイ・エス・エス
議題：「学生と社会」ー学生と土木業界やインフラ関連団体をつなぐー

■12月の予定

●第140回経営会議

開催日・場所：12月9日（火）Zoom 会議
議題：各事業の進捗確認／適疎な地域づくり研究の進め方

■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員 30／法人正会員 8／個人正会員 22／合計 60

●仲間：サポーター95／フレンズ 141／土木と市民社会をつなぐフォーラム 15／インフラパートナー18／合計 269

●CNCP の活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイアート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シンワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛鳥建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業（以上 30 社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCE 土木学会